

再送：4枚目追加

PRESS RELEASE



2024年5月16日

[配信枚数 4枚]

発信元 滋賀大学広報課

報道関係者 各位

滋賀大学とトヨタ・コニック・アルファ株式会社は、新たな学際領域
「**データ アート&サイエンス (Data Art & Science)**」で、
未来に向けた地域づくりを推進します

データサイエンス領域に、探求、思考などのアートの要素を組み込むことによって、より本質的な課題の理解や多角的な分析・解決につなげるデータ アート&サイエンス (Data Art & Science 詳細後述) の共同研究を行い、データ アート&サイエンスにより産学連携の取組を推進し、未来に向けた地域創生を目的として、滋賀大学 (滋賀県彦根市、学長：竹村 彰通) とトヨタ・コニック・アルファ株式会社 (本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山下 義行、以下「トヨタ・コニック・アルファ」) は、連携協定を締結します。

《協定式》

5月23日 (木) 15:00~15:30 (予定)

滋賀大学 彦根キャンパス 本部管理棟3階 大会議室

(出席) 滋賀大学長 竹村 彰通

トヨタ・コニック・アルファ株式会社 代表取締役社長 山下 義行

《本構想のプロジェクト》

- 2024年9月4日~8日オーストリアで開催される世界最大級のメディアアートフェスティバル「アルスエレクトロニカ・フェスティバル」で、取り組みの進捗や今後めざす展望、データ アート&サイエンスがもたらす滋賀の未来について体感できるプロトタイプ作品の展示、ワークショップ等を公開予定。
- 教育プログラムの共同開発を行い、未来のイノベーターとなる人材創出を図り、その知見を滋賀の地域課題の解決に実践することで、持続的な地域創生や未来のための新ビジネス開発を推進。さらに、滋賀大学が中心となり、彦根を「データ アート&サイエンス」の拠点としてビジネスパーソンや学生、地域の住民が交流できる場をつくり、滋賀の未来をつくる土壌をより豊かにしていく。

新学際領域「データ アート&サイエンス」とは

【構想背景】 データサイエンスの本質的意義を追求すべく新たな学際領域を構想

膨大なデータを活用したデータサイエンス技術へのニーズが高まっています。我が国ではデータサイエンスの知識や技術を持つ人材がまだまだ不足していることから、近年は大学を中心に人材創出・育成に向け専門学部や学科が急増、民間企業も学術機関との共同研究や人材育成に関する連携を深めています。日本初のデータサイエンス学部を設置した滋賀大学においても、2017年からトヨタ自動車グループとデータサイエンス人材の育成に共同で取り組み、産学連携を図っています。

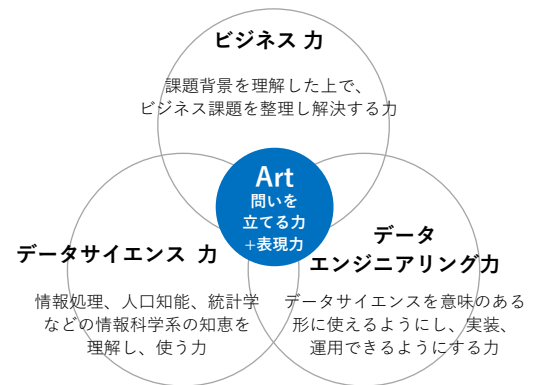
一方で、データを活用した分析や効率化の追求が進むも、社会そのものやビジネス課題の本質や実態を見抜いたり、未来を描きながらまったく新しい解決の糸口を見出す領域には十分踏み込んでいるとは言えません。そこで滋賀大学とトヨタ・コニック・アルファは世界的文化機関アルスエレクトロニカの研究開発部門「アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ」と連携し、従来のデータサイエンスに「アート」を加えることでデータサイエンスの本質的意義を追求する、新たな学際領域を構想しました。

【コンセプト】 データサイエンスに「アート」の軸を加え、新たな発見を生み出す

先行きが不透明で、将来の予測が困難と言われる時代の中、「アート思考」が注目されています。今回のデータ アート&サイエンス構想のパートナーであるアルスエレクトロニカは、40年以上に渡り「アート」「テクノロジー」「社会」をキーワードに、アートやアーティストが社会にもたらす新しい視点や思考の重要性を提唱してきました。

アートは、気付きや驚きのある未来のビジョンを描き、「問い」を創り出す、未来により良い社会を形成するための触媒の役割を持ちます。アートを加えることで我々が進む方向を360度見渡し、そもそも「何のためか」という疑問を持ち続けることが可能になります。

我々は、データサイエンスに「アート」という軸を取り入れることで、視点を変え、発想を豊かにし、それにより新たな発見が生み出されていくと今回の学際領域「データ アート&サイエンス」では考えています



データ アート&サイエンスでは
ビジネスカ、データサイエンスカ、
データエンジニアリングカを中心に
Art (問いを立てる力+表現力) が置かれる。

【推進機関】 トヨタ・コニック・アルファ×滋賀大学×アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ

トヨタ・コニック・アルファは、データを起点とし、新しい「仕組み」や「ビジネス」を創造することで、日本社会を元気にすることを標榜しています。このビジョンの実現に向けて、「データ アー

ト&サイエンス」という新しい学際領域を確立し、この新しい共有価値を様々な社会課題の解決につなげることができる人材育成と実践が必要だと考えました。

そこで2017年に日本初となるデータサイエンス学部を設立し、国内でデータサイエンスを推進する滋賀大学とアルスエレクトロニカの研究開発部門であり、次世代のアート、テクノロジー、社会のかたちを探求するアルスエレクトロニカ・フューチャーラボと、連携し、「データ アート&サイエンス」構想を推進することにいたしました。

《ご参考》



トヨタ・コニック・アルファ株式会社：

トヨタ自動車(株)と(株)電通グループが共同出資して設立したトヨタ・コニック・ホールディングス(株)の子会社として設立。「データで、ありがとうをつくる仕事。」をミッションに掲げ、リテール領域のデジタルトランスフォーメーション(DX)推進により、デジタルコミュニケーション分野の研究機関として、新たな「仕組み」と「ビジネス」の創造に取り組んでいる。(ウェブサイト：<https://toyotaconiq-alpha.co.jp/>)

- 設立：2021年1月
- 資本金：50百万円
- 株主：トヨタ・コニック・ホールディングス株式会社(100%)
＜ホールディングス株主：トヨタ自動車株式会社(66%)、株式会社電通グループ(34%)＞
- 代表者：代表取締役社長 山下 義行

アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ (Ars Electronica Futurelab)



オーストリアのリンツ市に拠点を置くメディアアートの文化機関アルスエレクトロニカの研究開発部門。1996年からアート、テクノロジー、社会についての研究開発を進め、人工知能、ロボット工学、メディア建築、インタラクティブ技術、新しい美学やスウォーム・インテリジェンスなど最先端領域に着目し、まだ見ぬ未来へのシナリオを実験的に具現化してきた。同ラボは、その最先端研究の成果を社会に向けて発信し、未来についての議論を深める活動を展開している。

日本関連では、日本経済新聞社の研究開発部門である日経イノベーション・ラボと体感的で没入感のある未来の新聞「DATASPACE」を開発し発表(2022年)している他、NHKと科学のおよび芸術的なアプローチで8Kの新たな可能性を探求するプロジェクトを実施、その成果として企画展「共鳴するメディア 8K ビジュアルライゼーションの可能性」を東京渋谷で開催(2022年)している。

(ウェブサイト：<https://ars.electronica.art/futurelab/en/>)

●本件に関するお問い合わせ

滋賀大学産学公連携推進課 担当：吉永

TEL：0749-27-1279 E-mail：soc-coop@biwako.shiga-u.ac.jp

トヨタ・コニック・アルファ株式会社 担当：神野

E-mail：tqhp_alpha@toyotaconiq.co.jp

